

御墓山

イザナミノ命の御陵が山頂にあると云われ、2畝歩(200㎡)ばかりは平で、周囲は2段となり高さ十尺(約3m)で、ひょうたんの形をしています。

戦前まで行われていた宣揚祭の斎場跡もこの南麓にあります。

八石(ハッコク)谷

妻イザナミノ命が火の神を産み火傷がもて亡くなりました。

そのことに怒り、嘆き悲しんだイザナギノ命が火の神の首をはねた時、刀や血から八柱の神が生まれた地と云われています。

牛ノ首(ウシノクビ)山

猿隠山と御墓山の間であり、スサノヲノ尊が母君を追念された所と云われます。

スサノヲノ尊を仏教式にいうと牛頭(ゴズ)天王であることにちなむと云われています。

猿隠山(サルガクレヤマ)

イザナミノ命が火の神を産み、火傷がもて去られたことから、避(サル)隠山と云われていました。

後に、藤内民部信貞という武士が怪物退治した折、猿が道案内をしたので猿隠山と呼ぶようになったと云われています。

大菅峠 = 東南道の剱 (セキ)

出雲国風土記には、「伯耆国日野郡塚、阿志毘縁山 35里 150歩。常有剱(常にセキ有)」と記されています。

仁多郡の郡家・亀嵩を出た東南道は、比田または竹崎を経て、御墓山の麓を通り下阿毘縁から山上・茶屋方面へ抜けたようです。



熊野神社

伊弉冉(イザナミノ)命が祀られています。

かつて、雪深い御墓山の麓にまつられていたが、参拝する人の便宜を考えて現在の熊野神社に合祀されました。

千酌(チクミ) ~ 御墓山 ~ 船通山

島根半島の千酌、御墓山、船通山の三地点が一直線上に並び、古道もこの直線上にあります。大陸からの文化や物資の流通が盛んに行われていたと推測されます。

二〇二四年一月/製作

阿毘縁むすびの会協議会

縦走路コース図 (全長約6km)

御墓山 ~ 境港市民の山 ~ 猿隠山